

研究紀要 第206号

令和2年度（2020年度）

茨木市教育センター研究紀要



茨木市教育センター

はじめに

茨木市教育センターでは、平成29年度から「教育課題研究会」という形態で調査研究事業に取り組んでまいりました。令和2年度は、「情報教育」、「支援教育」、「理科教育」、「英語教育」、「道徳教育」の研究を行い、その成果を令和3年2月1日から2月12日まで動画視聴による報告会を実施し報告することができました。そのときの報告内容に、詳細な資料を付け加えたものが、今回の研究紀要となっております。

さて、今年度から新学習指導要領が全面実施となり、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりや、外国語教育、プログラミング教育、さらには1人1台タブレットの活用など、教育実践の充実・深化が求められております。

そのような中、本市では、第4次3ヵ年計画「茨木っ子グローイングアッププラン」～「一人も見捨てへん教育」～の成果を踏まえ、今年度から、第5次計画「茨木っ子プラン ネクスト5.0」に取り組んでおります。このプランは、新学習指導要領の理念を踏まえて、一人ひとりの子どもに、「これからの社会を生き抜く力を育成すること」「様々な困難を乗り越え成長する力を育成すること」等をめざすものです。

本紀要は、研究員である先生方が、新学習指導要領を踏まえた授業づくりや学校の課題や子ども実態から出発した取組みを研究し、自ら試行錯誤しながら実践した、成果と課題の報告です。今年度はコロナ禍の影響により満足な活動ができない状況にありましたが、本市が大切にしている「一人も見捨てへん教育」を推進していただきました。今後、多くの方々にこの紀要をご高覧いただき、各校において特色ある取組みに活用していただければ幸甚です。

結びになりましたが、研究活動を進めるにあたり、ご尽力いただきました各部門研究会の先生方並びに、ご指導・ご助言をいただきました情報教育の竹内和雄先生、理科教育の大前暁政先生、英語教育の竹内理先生、支援教育の伊丹昌一先生・森田安徳先生、道徳教育の荒木寿友先生に厚くお礼申し上げます。

令和3（2021）年3月

茨木市教育センター
所長 新川 正知

目 次

I. 調査研究活動の概要

II. 情報教育研究

III. 理科教育研究

IV. 英語教育研究

V. 支援教育研究

VI. 道徳教育研究

I . 調査研究活動の概要

《情報教育》

小学校2校、中学校2校を「学校情報化推進校」として、授業におけるICT機器活用や情報モラル教育の推進及び、校務の情報化についての研究と実践に取り組んだ。

藤田 隼輔 山川 純平 八田 洋二郎 小島 基
アドバイザー 兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 氏

《理科教育》

理科教育全般にわたって授業に役立つ実践的な研究を行った。本年度は大阪府教育センターで理科の長期研修を受講した研究員が講師を務める研修を行い、その研修を受講した研究員がモデル授業を行い、市内小中学校へ理科の授業づくりを発信した。

木村 竜哉 木口 亜希 木村 幸司 多田 善一 向井 匠
小竹 佑治 伊藤 洋志 杉本 紗帆 久田 達彦 平川 紗帆理
アドバイザー 京都文教大学 教授 大前 暁政 氏

《英語教育》

新学習指導要領を踏まえて、小学校における外国語活動・外国語科の授業づくりや帯学習、小学校での実践を踏まえた中学校における外国語科の授業づくりや小学校と中学校の連携等のテーマで、専門家の指導を受けながら研究を行った。

兵頭 裕子 中野 温美 稗田 将太 北川 章子 酒井 万由子
アドバイザー 関西大学 教授 竹内 理 氏

《支援教育》

専門家の指導助言を受けながら、『全ての子どもが、学びたい、学びやすい 安心の学校づくり』をテーマに、ユニバーサルデザインを取入れた授業や、一人ひとりの特性や課題などに応じた支援や指導について等の実践と研究を行った。

前谷 聖人 山本 靖子 寺本 満里 徳高 常喜
アドバイザー 梅花女子大学 教授 伊丹 昌一 氏
元神戸親和女子大学 准教授 森田 安徳 氏

《道徳教育》

「特別の教科 道徳」の実施にあたり、授業のあり方や評価、校内体制について、所属校において実践的研究と実践を行った。

渡部 恭子 末廣 芽衣 遠藤 佳祐 木下 昌和
アドバイザー 立命館大学 教授 荒木 寿友 氏